平成 24 年度
鎌倉地域の漁業と漁港にかかる
ワークショップ報告書

ワークショップからのメッセージ

（素案）

平成 24 年 11 月８日版

鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ

も　く　じ

1. はじめに 1

2. ワークショップの概要 2

2.1. 平成 23 年度のワークショップ開催概要 ····· 2

2.2. 平成 24 年度ワークショップの開催経緯 ····· 3

2.2.1. 開催日等 3

2.2.2. 検討内容 3

2.3. 平成 24 年度開催概要 ····· 4

2.3.1. 第 8 回ワークショップ　平成 24 年 6 月 30 日（土） 4

2.3.2. 第 9 回ワークショップ　平成 24 年 7 月 28 日（土） 4

2.3.3. 第 10 回ワークショップ　平成 24 年 8 月 25 日（土） 5

2.3.4. 第 11 回ワークショップ　平成 24 年 9 月 29 日（土） 5

2.3.5. 第 12 回ワークショップ　平成 24 年 10 月 13 日（土） 6

2.3.6. 第 13 回ワークショップ　平成 24 年 11 月 17 日（土） 6

3. 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるメッセージ 7

3.1 メッセージ ····· 7

4. ワークショップで出された主な意見・要望 10

4.1. 鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンについての意見 ····· 10

4.2 台風被害など、喫緊の課題に対する意見 ····· 11

4.3 ワークショップのまとめ（メッセージ）について 12

4.4 漁港についての意見 14

4.5 鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案についての意見 15

4.6 ワークショップの進め方についての意見 16

4.7 解決・対応してほしいこと 16

5. おわりに 18

資料編

ワークショップ資料（第 8 回～第 13 回）

ワークショップ議事録

1. はじめに

「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ」は、平成 23 年度から平成 24 年度にかけ、平成 23 年 9 月 17 日から平成 24 年 11 月 17 日まで、合計 13 回にわたり、鎌倉地域の漁業と漁港について様々な議論を行った。ワークショップの中では、現地見学も行い、鎌倉地域の漁業の現状を把握しながら議論した。

このワークショップでは、当初、漁港建設の構想の策定に向けた議論を行うこととしていたが、参加者から多種多様な意見が提出され、最終的には水産業の将来ビジョンの検討や鎌倉地域の漁業が抱えている喫緊な課題にまで議論が及ぶこととなった。

この報告書は、これまでのワークショップにおいて提出された様々な意見から、参加者の共通の認識である 3 点をワークショップから行政、市民への「メッセージ」としてまとめるとともに、全参加者から提出された意見を網羅的に整理、編集したものである。

このワークショップにおける議論をきっかけとして市民の間に鎌倉地域の漁業と漁港についての議論が更に高まることを期待し、行政には、ワークショップからのメッセージ、各参加者からの意見を十分に参考にして、今後の鎌倉地域の漁業と漁港の検討に生かしていただくことを期待する。

＊　ワークショップは、平成 23 年度に 7 回、平成 24 年度に 6 回開催したが、平成 24 年度のワークショップの回数表記は、平成 23 年度からの通算で表記している。

2. ワークショップの概要

2.1. 平成23年度のワークショップ開催概要

「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ」は、「参加する方々（公募市民や関係団体）が、それぞれの立場で意見を持ち寄って、参加者同士で話し合い、「鎌倉地域の漁業と漁港」について考え、市へ意見を提出することを目的にする」と第1回のワークショップにおいて事務局から説明があった。

ワークショップは、平成23年9月17日に第1回会議を開催し、平成23年度中に7回開催した。

平成23年度のワークショップの成果は、「鎌倉地域の漁業が抱える問題への理解」、「漁港建設の課題」、「水産業振興・支援の必要性」、「ビジョンの明確化」、「市民が求める情報」、「漁対協答申に対する代替案の検討」の6点であり、これらについては、「平成23年度　鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップ報告書」としてまとめた。

はじめに、「鎌倉地域の漁業が抱える問題への理解」については、ワークショップをとおして、漁業者と漁業者以外の参加者の間で十分な意見交換を行うことができ、漁業者以外の参加者が、これまで知らなかった鎌倉地域の漁業の実情について理解が進み、ワークショップという新しい対話の場が形成されたことで、鎌倉地域の漁業が抱える課題や漁港建設に対する市民の意見について、一定の整理ができた。

また、「漁港建設の課題」、「水産業振興・支援の必要性」においては、「現在の社会経済状況や東日本大震災を踏まえると、早急な漁港建設は難しいこと」、「鎌倉地域の漁業の就労環境は厳しく、対策が急がれること」、「今回のワークショップだけでは、鎌倉地域の漁業や漁港に関する議論は不十分であり、ワークショップの継続が必要であること」など、参加者のそれぞれの立場から、意見や提案があった。

具体的には、鎌倉地域の漁業は、恒久的なインフラ整備が遅れていることから、これまでにも台風など自然災害による大きな被害が出ているばかりでなく、日常の漁業操業においても、鎌倉地域と同様の沿岸漁業を営む他地区に比べ、漁船の揚げ降ろし等を操業のたびに行わなくてはならない苦労もグループワークを通じて参加者に確認された。

そして、鎌倉地域の漁業が抱える課題は放置できるものではなく、何らかの対策は必要であるが、現時点での漁港建設のみにこだわらず、段階的に実行可能な対策を早急に講じていくことが提案された。

また、水産業振興として漁業者への支援策は、観光資産としての発展も期待されることから、今後も、水産業振興の議論を続けるべきであるとの意見も出された。

「ビジョンの明確化」では、市及び鎌倉漁業協同組合は、将来を見据えた水産業振興策を明確にするべきであるとの意見があった。

「市民が求める情報」は、漁港建設を議論するためには、環境アセスメントの実施、建設における費用対効果分析などより細かな資料の提示が必要であること、また「漁対協答申に対する代替案の検討」は、過去の議論や結論にとらわれず、広く

市民からの意見を聴取し、漁港施設のあるべき姿について比較検討を進めるべきであるとの意見があった。

また、平成23年度のワークショップでは、行政に対し、「市には、漁港建設の議論の前提となる水産業振興ビジョンがない」ことの問題提起があった。

このような様々な議論を経て、平成23年度のワークショップの成果をまとめる際に、鎌倉地域の漁港建設の問題や、現在の鎌倉地域の漁業が抱える課題や海浜利用について、市民、漁業者、海浜利用者がお互いに理解し合う話し合いの場として、更に、水産業振興が地域活性化に結び付く施策を議論する場として、ワークショップを平成24年度も継続して実施することが要望された。

2.2. 平成24年度ワークショップの開催経緯

2.2.1. 開催日等

平成24年度のワークショップの日程は、次のとおりである。

表 2.1 平成24年度ワークショップの開催日及び参加者数

回数	開催日	参加者数			傍聴者数（参考）
		公募市民	関係団体	合計	
第8回	平成24年6月30日（土）	13名	8名	21名	15名
第9回	平成24年 7月28日（土）	10名	10名	20名	10名
第10回	平成24年 8月25日（土）	10名	8名	18名	19名
第11回	平成24年 9月29日（土）	10名	7名	17名	2名
第12回	平成24年10月13日（土）	10名	7名	17名	9名
第13回	平成24年11月17日（土）	名	名	名	名

※ 開催時間は、第11回を除き、いずれも午前10時から正午まで。
第11回は、現地見学のため、午前8時30分から正午まで。会場は、鎌倉市役所第3分庁舎講堂。現地見学会時の意見交換会場は鎌倉漁業協同組合会議室。

2.2.2. 検討内容

平成24年度に行われた各ワークショップの主な議事は次のとおりである。

表 2.2 平成24年度ワークショップの主な議事

回数	各ワークショップの主な議事
第8回	・ワークショップ報告書について ・平成24年度の検討テーマと開催内容
第9回	・漁対協案と代替案の定性的比較 ・検討テーマについて
第10回	・鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョン（漁業者からの話し）
第11回	・現地見学会：小坪漁港、坂ノ下地区
第12回	・ワークショップからのメッセージについて
第13回	・最終とりまとめ

2.3.　平成 24 年度開催概要

2.3.1.　第 8 回ワークショップ　平成 24 年 6 月 30 日（土）

平成 24 年 6 月 30 日に開催した平成 24 年度第 1 回目の会議である第 8 回のワークショップにおいて事務局からの今年度のワークショップの内容として、「現地踏査」を実施するとともに、現時点において「対策すべき課題の抽出」と「具体的な対策案（イメージ)」について検討していただきたいとの説明を行い、ファシリテーターから以下の提案があった。

1）平成 23 度と同じ議論を繰り返さないよう運営方法を工夫してほしいという意見や、より漁業現場の状況に基づいた具体的な検討を進めてほしいという意見があった。したがって、漁業活動を維持し安全性を高めるための具体的方法を検討する。

2）昨年度の代表的な論点を踏まえ、漁港建設について検討するグループ、既存の施設設備の機能の強化による漁業支援を考えるグループの 2 つに分けて、具体的な検討をする。

このファシリテーター提案に対し、様々な意見が出されたが、その中の一つとして平成 23 年度にワークショップから提案した鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案について検討を進める、代替案を基に複数の案を検討していくとの意見があり、掘込式、和賀江嶋、既存施設の機能・構造強化、他港への拠点移行の代替案に対する市の定性的な評価について比較一覧し、第 9 回ワークショップで説明を行うこととなった。

2.3.2.　第 9 回ワークショップ　平成 24 年 7 月 28 日（土）

第 9 回ワークショップでは、前回要望があった鎌倉漁港対策協議会答申の漁港案とワークショップの代替案の定性的な比較について事務局から説明を行った。ワークショップの代替案である掘込式、和賀江嶋、他港への拠点移行は実現性が低い、または困難という内容であり、参加者から「これまでの経緯という欄に前年度までのワークショップの成果を入れるべきではないか」、「漁港建設は当面無理であるという話が記載されていない」、「資料は平成 23 年度の参加者の意見がきちんと反映していない、行政が進めやすい内容となっているのではないか」などの意見があった。

その後、平成 24 年度のワークショップのテーマについて検討を行い、鎌倉地域の漁業と漁港の将来を考えるために、現地見学により必要な検討項目の把握や課題の整理、具体的な計画案や代替案の検討をしたい、などの希望が出されたが、具体的なテーマは決まらなかった。

大判図面をつなぎ合わせて鎌倉海岸全体を再現

参加者からは、検討テーマについて「昨年のワークショップの成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう」、そのためにも「水産業についてどのようなビジョンを持っているか、漁業者の方々の話が聞きたい」との意見が出され、次回のワークショップで漁業者からプレゼンテーションが行われることとなった。

また、新しい試みとして第9回ワークショップから、具体的な現地のイメージをつかんでもらうため、会議室の長机の上に鎌倉海岸全体を俯瞰できる大きな地図を用意し、参加者が地図を見ながら議論や作業が行える準備を行った。

2.3.3. 第10回ワークショップ　平成24年 8月25日（土）

第 10 回ワークショップでは、漁業者から「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて」と題したプレゼンテーションが行われた。漁業協同組合内で合意されている事項ではないとした上で、「事業者が共同出資して会社を設立し、漁業者はその会社に収穫物を販売、事業会社の配当も得る仕組みを作るなど、広く市民の出資も募ることができる新たな事業形態の創出を検討していきたい」という趣旨の若手漁業者の思いが語られた。

鎌倉漁業協同組合の若手漁業者から話を聞く

その後の意見交換では、漁業者から提案された市民参加(出資)型の仕組み作りに対して多くの賛同や一緒に取り組みたいとの意見があった。

このプレゼンテーションを契機に、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンに多くの関心が集まった。

2.3.4. 第11回ワークショップ　平成24年 9月29日（土）

第 11 回ワークショップでは、漁労体験を含む現地踏査を逗子市の小坪漁港及び鎌倉海岸坂ノ下地区で行い、その後、意見交換を行った。

小坪漁港は、漁業規模が鎌倉地域と同程度で、漁港施設も斜路と防波堤を中心としているので、今後の検討の参考となった。現地では、これらの施設の使用目的や規模、構造あるいは必要性などについての解説と意見交換が行われた。

逗子市小坪漁港を見学

鎌倉海岸坂ノ下地区では、希望者による漁船の揚げ降ろしの漁労体験や浜小屋の見学を行った。

その後、意見交換では、多くの参加者から「現地見学をして良かった」との感想が聞かれた。

そして、平成 24 年度のワークショップの成果の取りまとめについて意見交換を行い、ワークショップではテーマを決めて議論するのではなく、行政や市民に向けたいくつかのメッセージを発信することとなり、残りのワークショップでメッセージの主題について議論していくこととなった。

鎌倉海岸坂ノ下地区で漁船の出漁を体験

浜小屋の内外を見学

2.3.5.　第 12 回ワークショップ　平成 24 年 10 月 13 日（土）

第 12 回ワークショップではメッセージの主題や発信先及びまとめ方について協議を行った。

メッセージはファシリテーターから 3 つの主題として「1.　鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2.　台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3.　行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」が提案された。その後、参加者全員が意見を述べ、概ねファシリテーターからの提案に賛同した。

また、メッセージの発信先は、第一義的には市であり、併せて鎌倉市民に向けたものになるのでは、という意見が出された。

2.3.6.　第 13 回ワークショップ　平成 24 年 11 月 17 日（土）

第 13 回ワークショップではメッセージを中心とした平成 24 年度の報告書のとりまとめを行った。

3. 鎌倉地域の漁業と漁港にかかるメッセージ

3.1 メッセージ

鎌倉地域の漁業は、自然環境を守りながら、国内有数の観光地における海岸利用と共存し、また、度重なる台風被害等にも耐えながら、現在も浜を利用した厳しい労働環境の中で操業を続けている。

漁業者は、今後も漁業を継続し、安全に操業するためには、漁港を建設することを望んでいる。

しかし、漁港の建設についての議論では、市民の中には、単に漁業者が厳しい労働環境を強いられていることのみをもって漁港建設を進めるべきではないとする意見もある。このため、前提となる鎌倉地域の水産業に関する将来ビジョンを明確にし、環境問題の解決や建設費用の確保、市民への利益還元などの議論を重ね、市民の理解を得ることが必要である。将来的に漁港が必要であることに理解を示している参加者も、その実現までには、このような課題を解決し、漁港建設について市民の理解を得る必要があるとしている。

本報告書では、ワークショップの中で参加者から提出された意見や要望をまとめ、行政や市民に対する「鎌倉地域の漁業と漁港にかかるワークショップからのメッセージ」として発信するものである。

このメッセージは、ワークショップの参加者が 1 年 2 か月に及ぶ議論の成果として、概ね合意できる意見をまとめたものである。

このメッセージにより、多くの市民に鎌倉地域の漁業と漁港に関する議論に関心を持っていただきたい。鎌倉の海を守ってきた漁業を今後どのように継続していくのか、今後の鎌倉の水産業はどうあるべきか、このワークショップに参加しなかった方にも考えていただきたいとの思いを込め発信するものである。

1）鎌倉地域の水産業の将来ビジョンを考えよう。鎌倉市の水産業のビジョンは、市民の食卓に地場の新鮮で安全な魚介類が届く流通システムの構築である。更に漁業が観光資源の一つとなり得ることをも念頭に構築することが重要である。

鎌倉の海岸で水揚げされる水産物は、流通の課題により漁業者が加工するシラスやワカメなどを除き、市民が入手しにくい状況がある。鎌倉の水産物は、まだまだ「鎌倉やさい」のように鎌倉ブランドとして知名度が高いとは言えない。

また、鎌倉漁業協同組合が月 1 回開催する朝市や早朝の浜売りなどの機会を除けば、市民が直接購入できる店舗も少なく、地元水産物が鎌倉市民の食卓にのぼる機会は多いとは言えない。

漁業者が漁業を誇りに思い、鎌倉市民が鎌倉の水産物を愛し、市外の消費者が鎌倉に訪れて水産物を買い求めるような状況が生まれれば、鎌倉の水産物の持つブランド力を生かした特長ある漁業の展開も可能となると考える。

第 10 回ワークショップにおける若手漁業者のプレゼンテーション「鎌倉の漁業の将来と未来」からもこのような若手漁業者の意気込みが伝わってきた。

地先に沿岸漁業を持つことの意義やその可能性について、多角的に、また、多くの主体となり得る関係者を巻き込んで議論していくことが大変重要である。水産業を 6 次産業化としてとらえ、地産地消など様々な立場や視点から考えていく必要がある。

一方、鎌倉の海岸というフィールドでみれば、そこは、漁業者の就労の場であるとともに、散歩、海水浴、サーフィン、ウインドサーフィンなど鎌倉市内外の人々の憩いの場となっている。今日、多様な主体が共存し得ている状況を大切にしながら、事故を防ぎ、利用者相互の信頼関係をいっそう深めることも重要である。

2) 台風被害など鎌倉の漁業者が抱えている喫緊の課題について、行政が早急に具体的な対策を実施することが必要である。

ワークショップにおける意見交換や現地見学を通じて、漁業者が台風時の高潮に苦労していることが漁業者以外の参加者にも理解された。浜小屋は浜を利用した伝統的漁業形態の名残をとどめる漁具の保管や収穫物の荷捌き等に使われる施設であるが、現行法令上では、これを耐久性のある永久構造物として建造することが認められていない。

このような状況から、台風などによる高潮によってたびたび浜小屋が破損するとともに、漁船や漁具にも被害が生じており、そのたびに自らの責任で修復せざるを得ない状態である。こうした出費が自助努力による漁業展開を圧迫していることは否定できない。更には、仮設での建築しか認められない浜小屋は、鎌倉の良好な海岸景観の維持という面でも課題がある。

また、高潮時に漁船の流失を避けるためには、比較的大型のものは近隣の漁港やマリーナに要請して一時避難をし、小型のものは各所有者が避難場所を確保しなければならない苦労がある。

鎌倉海岸の砂は通常は一定の量を保っているが、波浪が激しい時には大きく侵食される。海岸管理者である県は大型土嚢を積んで応急的に侵食を抑制し、流出した砂を補填しているが、侵食を受けた状態では浜からの出漁が通常以上に困難となり、台風後の漁業再開がしばらくの間できないということもある。

鎌倉地域の漁業を安全で安定的に継続していくためには、行政は具体的な対策を講じ、漁業者の負担を軽減する必要がある。なお、漁業者のこれらの苦労は、ワークショップに参加した人々など、限られた市民にしか知られていない。単に知らせるだけでなく、市民に共感を持って受け止められるためには、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンの構築が大きな意味を持つことになる。

3）鎌倉の漁業、漁港建設のあり方については、このワークショップを契機に、市民が自ら話し合いを企画し、あるいは課題を多角的にとらえる研究会を開催し、結果を行政に提起していくべきである。

ワークショップでとりまとめた意見や要望は、報告書としてとりまとめ市へ提出するとともに、市民に向けても情報発信を行っていくものである。

ワークショップは 13 回にわたり開催し、協議を重ねてきたが、参加者により関心のあるテーマは異なり、どこまで議論が尽くされたかは参加者によりその受け止め方は異なっている。

このワークショップ自体は市の主催で行われたが、鎌倉地域の漁港そのもののあり方について、本ワークショップ終了後も継続して考えていきたいという参加者もいた。

漁港建設の課題解決を市にだけ求めるのではなく、このワークショップを契機に、ワークショップ参加者または市民自らが、市民主体のワークショップや研究会を開催するなどして、市に提案を行っていく姿勢が我々市民にも必要であり、実行していくべきである。

4. 平成 24 年度ワークショップで出された主な意見・要望

ワークショップは、参加者がそれぞれの立場で意見を交換し、情報を共有することにより、合意形成を図る場であり、何らかの結論を求めるための賛否を問う場ではない。提出された一つひとつの意見を課題の解決に向けた各参加者からの意見として捉えている。

こうした観点から、各ワークショップで提出された主な意見や要望を項目別にまとめる。

4.1. 鎌倉地域の漁業と漁港の将来ビジョンについての意見

ワークショップからのメッセージの１番目は「鎌倉地域の水産業の将来ビジョンを考えよう。鎌倉市の水産業のビジョンは、市民の食卓に地場の新鮮で安全な魚介類が届く流通システムの構築である。更に漁業が観光資源の一つとなり得ることをも念頭に構築することが重要である。」とした。

参加者からは、検討テーマについて「平成 23 年度のワークショップの成果から考えると、鎌倉市水産業のビジョンについてまず整理すべきだろう」との意見があり、第 10 回ワークショップでは、若手漁業者が中心となり「鎌倉漁業協同組合の将来ビジョンについて」と題したプレゼンテーションを行い、これに対して各参加者から、鎌倉地域の水産業の将来ビジョンに対する多くの意見が提出された。

【漁業と漁港の将来ビジョンに対する具体的意見】

- 平成 23 年度のワークショップの成果から考えると､鎌倉市の水産業のビジョンについてまず整理する必要がある。
- 鎌倉の漁業者による「鎌倉市民への水産物供給」を実現し、漁業を鎌倉地域の産業の柱の一つとする。
- 水産業についてどのような将来ビジョンを持っているか、鎌倉地域の漁業者の話が聞きたい。
- 鎌倉地域の若手漁業者から提案のあった「鎌倉の漁業及び水産業の未来」(若手漁業者の想い)の漁獲、加工、販売が一体となる事業体の立ち上げでは、障がい者や地域での雇用が期待できる。
- 鎌倉地域の漁港建設の問題については、その必要性について、市として市民を含めた議論を行い、漁港建設を含めた水産業のビジョンを明らかにしていく必要がある。
- 鎌倉市が鎌倉海岸を活用した漁業や観光など産業振興について総合的に考えていくべきである。
- 報告書には、水産業に対する将来ビジョンを示すだけでなく、鎌倉地域の漁業の現状も説明した方がいい。

【ビジョンの実現に向けた具体的意見】

● 水産業のビジョンは鎌倉地域の漁業だけではなく、産業振興、特に、第１次産業の６次産業化などにも目を向け、漁業者、市民、市民団体などによる新たな事業体を立ち上げ、皆で収益をあげることを考えていく。

● 漁業者が提案する漁業者、市民、市民団体などによる生産、加工、販売システムを構築する新しい事業体の話を進めていきたい。

● 漁港建設については、行政に頼るだけでなく、民間の力を使うように動かないと決して実現はしない。

● 民間事業者による企画提案型の事業が漁港建設にも取り入れられるか、その可能性を考慮し、鎌倉地域の漁港建設に対する提案募集を検討したい。

【漁業や漁港に対する意見】

● ワークショップとして、鎌倉にふさわしい漁港や理想とする浜の使い方について意見を整理しておく必要がある。

● 将来、市が漁港建設を行う決定をする場合、何を持って市民の合意形成が得られたかの指標を考えておくべきである。例えば市民の合意形成を図る尺度として、浜売りの来場者数、漁業体験の参加者数のように数値で示せる指標を設定するべきである。

● 鎌倉の漁業は歴史がある､その漁業をこれからどう残すのかを考えるべきである。

● 鎌倉地域の海岸では、漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクレーション利用者とが同じフィールドを共存しながら利用するいい関係が構築されている。

4.2 台風被害など、喫緊の課題に対する意見

ワークショップからのメッセージの２番目は「台風被害など鎌倉の漁業者が抱えている喫緊の課題について､行政が早急に具体的な対策を実施することが必要である｡」とした。

ワークショップでの意見交換や現地見学を通じて、漁業者が台風時の高潮に苦労していることについて、漁業者以外の参加者の理解が深まった。

【台風被害などに対する意見】

● ワークショップでは、秋の台風シーズンに向け、災害対策の解決策を論議すべきである。

● 市は台風時の砂浜侵食や船の避難などの対策について、県などの関係機関に働きかけ早急に対策すべきである。

● 鎌倉地域の漁業を継続していくためには、漁業操業の安心・安全を確保する施策が第一である。

● 漁業者は、台風で浜小屋が道路に打ち上げられてしまう事態が起こらないかと心

配している。

【災害対策の具体的意見】

- 浜にコンクリートで半地下式の漁船やサーフボード等が収容できる施設を造って、漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクレーション利用者とが共同利用できるといい。ふれあいの場にもなる。
- 漁業者の浜小屋を、台風時でも被害を受けない安全な施設に改善すべきである。

4.3 ワークショップのまとめ（メッセージ）について

「鎌倉地域の漁業と漁港に係るワークショップ」は、全 13 回に及ぶ議論の成果をメッセージとして発信する。

第 12 回ワークショップにおいて、メッセージの主題や発信先について協議を行った。

【メッセージの主題について】

- ワークショップからのメッセージはファシリテーターから提案された 3 つの主題「1.　鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」、「2.　台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3.　行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」（以下「3 つの主題」という。）で良いのではないか。
- ワークショップからのメッセージとしては、ファシリテーターから挙げられた 3 つの主題でいい。漁港が建設されない場合のデメリットも報告書には載せて貰いたい。
- ワークショップからのメッセージはファシリテーターからの 3 つの主題でいいと思う。特に「1.鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」が重要である。なぜ漁港建設が今できないかのワークショップとしての結論は平成 23 年度の報告書に出ているため、漁港建設に向けて課題をクリアする条件は何かについて議論すべきである。
- ファシリテーターから提案のあったメッセージの 3 つの主題では、それぞれ対象とする取り組み範囲が異なり、メッセージの「2.　台風被害等、喫緊の課題に対する解決策」、「3.　行政に頼らない市民による水産業支援への取り組み」は「1.　鎌倉地域の漁業の将来ビジョン」という大きなテーマの下に位置するものだと思う。
- 鎌倉地域の若手漁業者が発表した「鎌倉の漁業及び水産業の未来(若手漁業者の想い)」で語られた将来ビジョンの「事業者が共同出資して会社を設立し、漁業者はその会社に収穫物を販売し、事業会社の配当も得る仕組みを作るなど、広く市民の出資も募ることができる新たな事業形態の検討」に賛成である。報告書にも並行して明記すべきである。新たな事業体の立ち上げには、そのための多目的な施設が必要である。
- 市全体で考えると、漁業には長い歴史があり、鎌倉の食文化を形成しているという点で大事な産業である。

【メッセージへの漁港の記載について】

- 報告書では、漁港建設に反対であるということを市民の声として印象深く訴えるものとしたい。一方で、造って欲しいという参加者の声も明記すべきである。
- 漁港建設による平塚海岸等の海岸侵食の例もあり、鎌倉地域の漁港計画をいきなり見せられると反発する。
- このワークショップは、漁港に関するワークショップなのに、ワークショップからのメッセージの主題に漁港というキーワードがないのは問題で、項目として「漁港」に対する何らかの記載が必要である。
- 当初は鎌倉地域の漁港建設に反対であったが、今は漁港は建設した方がいいと考えている。市民や海浜利用者が漁業者用の浜小屋を共有できるといいと思う。
- ワークショップの 1 年目の平成 23 年度は、意見の異なる参加者同士の協議で話がなかなか進まず、漁港建設が前提としてあるべきではないという結果が成果（主な意見）の一つとして挙げられた。平成 24 年度の報告書で漁港建設に触れるなら、建設の条件をはっきりさせ、専門家と市民を交えた環境面に対する影響の検討が必要である。
- 第 11 回ワークショップの現地見学のように海が凪のときばかりではなく、漁港がないために沖での水揚作業の動力化もできず、また、台風が来襲するたびに砂が沖に流出する状況が続く中、鎌倉地域には漁港が必要であるということを市民にも理解していただきたい。一方で現状の漁業活動を維持していくための台風時等の早急な安全対応が必要である。
- 毎年、台風で砂が沖へ流出するたびにお金をかけて鎌倉海岸に砂を繰り返し投入して砂浜を維持するよりも、漁港を建設した方がいいと思う。
- 漁業者としては、船を安全に出し入れできる環境で安心して安全に仕事がしたい。
- 平成 23 年度のワークショップの議論は、当初は漁港建設に関するものであったが、しだいに水産業振興や漁業者への支援などの議論へ替わっていった。ワークショップからのメッセージには漁港という言葉を入れてほしい。
- 鎌倉地域の漁港建設は、たとえ埋め立て式でない、陸地側への掘り込み式であろうと、建設費に対する税負担の点から反対である。坂ノ下地区の再開発に関しては漁港と切り離して考えるべきである。
- 鎌倉地域の水産業のビジョンをつきつめていけば、またその中で鎌倉地域の漁港建設に関する話ができる。
- 鎌倉地域の漁港について話し合うために集まったワークショップである。漁港という言葉がワークショップからのメッセージのタイトルから抜けるのは違和感がある。

【まとめ方について】

- 参加者の問題に対する理解の度合い、参加の度合いが異なるためワークショップでは様々な意見が出るものである。このワークショップは結論を出す場ではなく、

また、参加者も市民を代表している訳ではない。報告書では参加者から出された様々な意見を列記すればいい。

● 平成23年度のワークショップの成果と平成24年度の報告書を切り離さないのであれば、報告書のとりまとめは事務局で行うことでいい。漁港建設に賛成、反対の理由を掘り下げられるといい。

● 報告書に漁港建設に賛成・反対を明記するという話があったが、未来永劫に不要という人はワークショップメンバーの中にはいないだろう。メンバーで対立があったようにまとめるのは避けた方がいい。

● 子供たちに「残すべきもの／残してはならないもの」の視点で報告内容を整理するとよいと考える。

・[残すべきもの] ①できるかぎり自然な海の姿、②豊かな食文化（地産地消の有難さ、漁の大変さ、後継者問題等への理解を含む）

・[残してはならないもの] ①開発による再生不能な自然環境、②税金の増加などの負債

4.4 漁港についての意見

漁業者は、漁業を将来にわたり継続し、安全に操業するためにも、将来的には鎌倉地域に漁港を建設することを要望している。

しかし、漁港建設には市民への利益還元の軽重、環境問題そして財政負担など様々な課題がある。ワークショップの参加者は、将来的には漁港が必要であることに理解を示している人もいるが、その実現までには、前述の様々な課題を解決し、市民の理解を得る必要があるとしている。

【漁港の建設について】

（肯定的意見）

● 鎌倉地域の漁業の安全操業のためには、将来的には漁港建設は必要である。

● 逗子市の小坪漁港程度の規模の漁港ならば建設してもいいのではないか。

● 鎌倉市は、鎌倉市都市マスタープラン増補版の中に「(仮称) 鎌倉漁港の整備について検討します」と明記されているので、このワークショップの中で漁港建設を否定するものではない。

（否定的意見）

● 漁港建設に5年から10年かかり、その間の台風時に対する災害支援策が有効に機能して被害が抑えられるなら、そもそも漁港建設に関する検討をする必要があるのか疑問である。

● 市民の立場として、漁港建設に対する鎌倉市の税金の使途が適切かという視点で考えている。

● 湘南地域の他の漁港のように、いったん埋め立てをして漁港を建設したら海の自然

は元に戻らない。埋め立て区域が拡大し、海の自然環境が悪化することを懸念している。

- 漁港の建設をするには時期が悪い。東北地方の各漁港が東日本大震災で甚大な被害を受けて間もない状況の時に、鎌倉市に２つ目の、新たな漁港建設の基本構想・計画を国にあげるということは、鎌倉市として恥ずかしい行為だと思う。
- 一つの市の中に２つの漁港は必要ない。
- 漁港の建設は環境への影響の問題が大きいので、鎌倉海岸に構造物を造るのはよくない、従前の箱物行政による漁港建設には反対する。
- 整備について検討することが明記されている都市マスタープラン増補版こそ、現状に鑑みて漁港建設について見直すべきではないか。

（条件付き意見）

- 鎌倉地域の漁業者の漁業活動の現状やこれからの水産業を含む産業振興の観点から漁港建設を考えるべきである。
- 漁港が漁業者とヨットやサーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクレーション利用者、市民が一緒に使えるなら建設してもいい。
- 漁港が整備され、鎌倉海岸の浜小屋が整理されれば海岸線がきれいになり、それが観光の一つの目玉になったらいい。
- 和賀江嶋を鎌倉海岸の別の場所も視野に入れ、「現代の和賀江嶋」として復活させてはどうか。

（その他意見）

- 鎌倉地域の漁業者は腰越や小坪の漁業者と共同して新しい漁業体系を作っていくべきである。漁業について詳しく理解している市民の意見ではないが、そのような意見があることは知ってもらいたい。
- 報告書には鎌倉地域に漁港を造らなかった場合のデメリットを例示しても記すべきである。
- 鎌倉地域の漁港建設に反対する人の本音があれば知りたい。

4.5 鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案についての意見

平成 23 年度にワークショップから提案した鎌倉漁港対策協議会答申に対する代替案を基に検討していくとの意見があり、事務局から掘込式、和賀江嶋の利用、既存施設の機能・構造強化、他港への拠点移行などの代替案に対する市の定性的な見解について第 9 回ワークショップで説明を行った。しかし代替案の検討については今ワークショップでは検討テーマとはならなかった。

【代替案について】

- 平成 23 年度の報告書で示している鎌倉漁港対策協議会答申に対する「代替案」の

検討を進めてはどうか。

- 平成 23 年度のワークショップで提出された鎌倉漁港対策協議会答申に対する「代替案」を基に、複数の案を同時並行的に検討していく。
- 鎌倉漁港対策協議会答申の漁港案は、位置的に、防災上や、漁業をする上でも課題があるのではないか。
- 鎌倉市漁港対策協議会答申の漁港案についてワークショップとしてどう評価するか、報告書に意見を記載する方がいい。
- 代替案に対する市の定性的な比較一覧の資料について

「平成 23 年度のワークショップの成果を入れるべきではないか」

「漁港建設は当面無理であるという話が記載されていない」

「資料は平成 23 年度の参加者の意見がきちんと反映していない、行政が進めやすい内容となっているのではないか」など。

4.6 ワークショップの進め方についての意見

平成 24 年度のワークショップの実施にあたり、検討テーマや検討方法について協議を行った。

【テーマについて】

- このワークショップでは、鎌倉地域の漁港建設について、承認できない内容を決めていきたい。
- ワークショップでは漁港の具体的な建設について検討をしていきたい。
- 今ある漁港案は鎌倉漁港対策協議会答申ということなので、ワークショップではそれ以外の案を検討すべきではないか。
- ワークショップでは、鎌倉地域の漁港建設の是非を判断するのではなく、鎌倉の水産業のビジョンの検討から行いたい。

【グループ討議について】

- 全体協議では議論がなかなか進まないため、グループに分かれて検討すべきである。
- テーマごとにグループを固定すると同じ思想の人が集まってグループワークをすることになり、意味がないので、全体で検討を行うべきである。
- テーマを決めて、そこから外れないように全体で検討する方が、効率化という点ではグループに分けるより有効ではないか。
- このワークショップとは別の会を市民参加の基に立ち上げて検討した方がいい。

4.7 解決・対応してほしいこと

参加者から、平成 23 年度に引き続き、協議の前提としての調査・分析や、行政が対応すべき課題についての意見・要望があった。

【対応すべき課題】

- 行政側で漁港建設に対する費用対効果分析を実施し、その検討結果を示した上で議論を行う。
- 行政は漁港建設に対する環境アセスメントを定性的評価ではなく、事業が始まる前に定量的に評価行ってほしい。
- 台風の波が国道 134 号線にあがらないように、鎌倉海岸の浜小屋を整備する。
- 鎌倉海岸に防波堤を造り、浜小屋を集約して、海岸線の見栄えを良くした方が良い。
- 漁港だけではなく、坂ノ下地区の再開発を念頭においた、50 年後 100 年後を見据えた計画にすべきである。
- 鎌倉地域の漁港建設は 60 年前から話されているが、現在では社会状況が変わり環境や財政問題等があり、市民感情として従前の行政計画のまま進めることは認められない。行政計画の見直しが必要である。
- なぜ、鎌倉地域の漁港建設が 60 年間も放置されたのか。それ自体が問題である。

5. おわりに

「鎌倉地域の漁業と漁港に係るワークショップ」は、公募市民と漁業協同組合、マリンスポーツ関係団体、周辺自治会等の関係団体で構成し、鎌倉地域の漁業と漁港について様々な観点から論議を行い、その成果として行政、市民に向けメッセージを発信することとなった。

今までに漁港の建設については、3 次にわたる鎌倉漁港対策協議会での検討はあったが、直接市民の意見を聴くために開催された会議は、本ワークショップがはじめてである。

平成 23 年度から平成 24 年度にかけて 13 回行ったワークショップにおいて、参加者から様々な意見や提案が提出された。これらの意見や提案をより多くの市民に知っていただき、鎌倉地域の漁業と漁港について考えてほしいとの想いから、我々の検討の成果をメッセージに込めて発信することとしたものである。

鎌倉地域の海では、古くから漁業が営まれ、守り続けられている。そして、鎌倉地域の漁業は一般の海浜利用や当地で盛んに行われているヨット、サーフィン、ウインドサーフィンなどの海洋レクレーション利用とも相互に理解し共存を図り良好な関係が保たれている。

しかし、漁港の建設にあたっては、海岸利用はもちろん、そのほかにも解決しなくてはならない様々な課題があることがワークショップの議論の中で確認されたが、漁港建設における市民による合意形成もその一つである。

我々が発信するこのメッセージが鎌倉地域の漁業と漁港についての議論を高めるきっかけとなることを期待する。

そして何より、鎌倉の海がより良い形で次世代に引き継がれていくこが我々の願いである。